

4. クレジットカード・ローン利用のキホンを知ろう

ポイント

- 支払い方法によって手数料、支払利息が異なることを知っておこう。
- 少額から手軽に借りられるスマホ融資にも要注意。

手数料が高いリボルビング払いには要注意!

現金払いのほか、電子マネーやクレジットカードなど支払い方法の選択肢が広がりを見せています。大きく分けると事前にチャージなどをしておく「前払い」と購入と同時に残高が減る「同時払い」、後日にまとめて請求がくる「後払い」に大別できますが、支払い方法によっては手数料や支払利息が異なることを知っておきましょう。

特に注意したいのが、後から請求がくるクレジットカード払いの中でも、一括払い以外の支払いスタ

イルです。後払いなら、支払う時点でお金がなくても大きな買い物ができるのがメリットですが、分割払い、リボルビング払い（リボ払い）の場合は、手数料がかかります。

特にリボ払いの場合は、どんなに買い物をしても毎月一定額を払えばいいという仕組みで、支払残高がなかなか減らず、高い手数料がいつまでもかかるリスクがあります。月々の支払額は低くても総額で見れば1回払いより負担が大きく、支払いが長く続きます。

1回払い、分割払い、リボ払いでこんなに差が!

4万円の買い物をした場合で、分割払い、リボ払いで総額を比較しました。1回の支払額は少なくても、2,000円超の差になることも。リボ払いでない

と買えないような商品は貯めてから買う、または本当に必要か考えてみることも大切です。



※支払方法や手数料は会社や支払い回数によっても異なります。

「気軽」「少額」の借り入れ、「知らないうちに」の使い過ぎに注意

1. カードローン

カード会社などの貸金業者や金融機関が提供する個人向けの融資を指します。使う目的が決まっている住宅ローン、教育ローン、自動車ローンに対し、目的を問わないのがカードローンのメリット。審査基準も比較的緩やかで借りやすいのも特徴です。一方で、金利が高いのが要注意ポイント。消費者金融ではなく銀行のカードローンなら安心感があると誤解しがちですが、いずれも金利水準は高め。利用する際は借りたお金をどう返済するか、計画が必須です。安易に手を出して、返済を遅延し、その後、住宅購入などで借り入れが必要ときに借りられないことのないよう注意が必要です。

2. スマホ融資

スマートフォンで少額(1万円程度)からお金を借りられるアプリが増えています。簡単な審査で即日で借りられる消費者金融、銀行カードローン系のアプリのほか、携帯キャリアやコンビニ、キャッシュレスサービス事業者が提供する後払いのスマホ決済アプリなどが登場しています。

アプリ操作1つですぐに借り入れができるため、「少しお金が足りない」といったときには便利ですが、借金をしている意識が希薄になるため、借り過ぎてしまうリスクも。借入限度額は数百万～1,000万円程度まで可能なケースがあり、上限は決して少額ではないことも覚えておきましょう。



3. オートチャージ

交通系ICカード、電子マネーやプリペイドカードの残高が事前に指定した金額を下回った場合に、紐付けているクレジットカードから自動的にチャージ(入金)を行う仕組みです。自動的に入金されるため、便利な反面、気づかないうちに使い過ぎてしまうリスクも。不安な人はオートチャージ金額やオートチャージ実行判定金額を設定するようにしましょう。設定によって1日当たりや1カ月当たりの上限チャージ金額を超えるとオートチャージされないようにすることもできるので、うっかり使い過ぎも防止できます。

4. サブスク(サブスクリプション)

サブスクリプション(サブスク)とはモノやサービスの使用权を購入し、利用したい期間に応じて料金を支払うビジネスモデルです。代表的なものとして音楽配信サービスや動画配信サービスがあり、利用の都度、購入する必要がなく、月額で利用し放題になるのがメリットですが、毎月支払いが続くため、固定費が膨らむ注意点も。

いつでも解約できるのもサブスクの特徴ですが、サービスによって解約の方法がわかりにくいケースもあるようです。事前に解約方法を確認し、利用頻度が下がったら迷わず解約するようにしましょう。



Column お金のプロ・FPが教えます

返済遅延の“落とし穴”とは？

「ブラックリスト」という言葉があります。ブラックリストに載ると「新たな借り入れができない」「クレジットカードが作れない」などと言われますが、「自分には関係ない」と考えている人も多いのでは？ しかし、入金を忘れるなどちょっとしたミスで登録されるリスクもあることを覚えておきましょう。

例えば奨学金を返済中という方。奨学金にもよりますが、3カ月以上の延滞で信用情報機関に個人情報登録されると明記しているケースもあります。信用情報機関とは、借り入れの申し込みや契約などに関する信用情報を管理している組織で、延滞などの事故があると、その情報が事故情報として登録されます。

また、過去にうっかり口座引き落としができず、奨

学金の延滞を繰り返したために、住宅ローンの審査に通らなかったというケースもあります。

引き落とし口座のお金がたまたま返済額に足りなかったといったミスのないよう注意しましょう。

自分の信用情報は自分でチェックできる

信用情報機関への問い合わせは個人でも可能。

- **株式会社シー・アイ・シー(CIC)**
クレジットカードや信販系の企業が加盟
- **株式会社日本信用情報機構(JICC)**
主に消費者金融が加盟する信用情報機関
- **全国銀行個人信用情報センター(KSC)**
全国銀行協会が設置・運営。銀行が加盟